

たまきゅう便り

新年度のご挨拶

多摩丘陵病院 理事長 掛川 暉夫



戦前は富国強兵、軍国主義に基づく滅私奉公を強制され、敗戦後は180度転換した自由主義、主権在民思想を拝受し、其れに付随した物質的豊かさの強い追求、環境破壊まで加味した高度成長期と目まぐるしい激動の昭和時代を受け継ぎ、その反省も含め平和で物心特に精神面の実り多き豊かさを求め、元号を「平成」と称し新しい船出をしたと言われて

30有余年、その平成時代も終焉を目前にし、新しい世代を迎え様として居る。従って今年度の本院広報誌は新世代初の記念すべき誌となる訳である。平成時代を私なりに振り返り率直に考えて見ると、確かに平和の時代を過ごし戦争に依る犠牲者は我が国で一人も出ていない。併し地震、津波、豪雨土砂崩れと天災に依る甚大な被害を経験し、且つ長く続く信じた高度成長期も終わり、格差社会が到来、併せ少子高齢化現象が顕著になり社会不安が人々の身近に忍び寄って来た時代でも在ったと思う。斯かる時代の世相変遷、変化を肌身に敏感に感知し、新時代を迎えるに当たり地域住民に愛され、共存する為の将来構想に就き考え、病院の基盤を磐石なものとすべく前以て当院の方向性、方策を検討して置く必要性を痛感した。その為に我が幸隆会多摩丘陵病院機構で「国の医療行政」の目標、指針、及

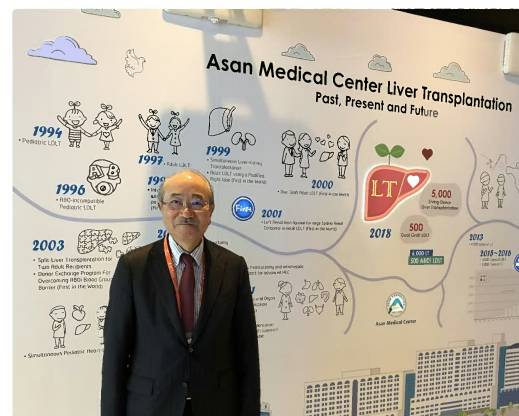
発行
多摩丘陵病院
広報委員会
町田山下小山田町
1491

び当院の立地状況等を熟慮し、この地域で価値ある存在として地域住民から信頼され、喜ばれる為に如何に在るべきかを真摯に検討、分析した。此の地域、診療圏には高齢者が多い特徴に鑑み、彼等層に十分配慮を払いつつ地域住民の健康管理を中心に福祉向上に努め、明るい楽しい活気に満ちた社会環境創成の為、その一翼を担う先兵足るべきであるとの結論に達した。そこで理事会等で議論、検討を重ね最新の診断部（人間ドック）を備えた急性期病院の新設、独立した回復期リハビリ病院の増設、長期療養施設、訪問施設（診療、介護、リハビリを一体とした）の充実と、地域の特性に適合した一大ケアミックス総合施設構想こそが最適との結論になりその実現に踏み切る事に決断し周知もして来た。諸般の事情で総合施設構想の着工、実現、運営は2、3年先と成らざるを得ないが、併し企画、立案は今から行う事必須で、既に現在各部門で担当責任者らが敷知を絞り着々と進めつつ有る。進捗状況に就いては折々に報告する予定であるが、新時代、世代を真に控えた記念すべき時を迎えた此の時期であるからこそ、一部のメンバーのみに此の大事を委ね、傍観者の立場に立たず、新時代に沿うべく心新たに、少なくとも此の地域で多く生活している高齢者に焦点を置き、彼等の quality of life 向上の担い手であるとの自覚を当院職員の間々が持ち接し、常に彼等の声、要望を広く察知し新構想機構の中に盛り込むべく努力し、活発な意見具申をして戴きたく其れがまた私が常々述べている自分の職場（病院）が好きで愛している証明とも成ると思ひ積極的協力を熱望する次第である。そして記念すべき今年を地域に愛され住民と共に生き歩む新施設誕生成就の基礎年とすべく職員一同一丸となる年である事、広報誌発行を通じ重ねお願いし拙文を閉じる。

日本と韓国における臓器移植事情の相違

ソウルアサン病院での生体肝移植5000例記念国際シンポジウムに参加して

多摩丘陵病院 院長 島津元秀



国際シンポジウム会場にて

ソウルにあるアサン病院での生体肝移植が1994年開始以来2018年で5000例（脳死肝移植を含めると6000例）を突破したのを記念して、国際シンポジウムが昨年11月30日から2日間開催された。本シンポジウムの会長であるサングュー・リー教授とは旧知の仲であり、私も「5000例の生体肝移植を振り返って」というセッションの座長として招待された。世界各国から肝移植のリーダー達が参加し、肝移植手術のライブデモをはじめ、多くの最先端の発表・討論が行われ、極めて盛大なシンポジウムであった。アサン病院は2705病床を有する韓

国最大の病院で、年間肝切除1000例、肝移植450例以上を実施している世界最大の肝胆膵・移植外科施設でもある。かくの如く現在、韓国では肝移植を含め臓器移植が日本よりも活発に行われている。

日本での生体肝移植は1989年～2017年末までに8795例が行われ、2005年の年間566例がピークで、最近では漸減し400例に満たない。脳死肝移植は1999年～2017年末までに444例が施行されたが、そのほとんどが2010年の改正臓器移植法施行後に行われ、最近でも年間60例程度である。すなわち、日本の肝移植の現況を韓国と比較してみると、日本全国を合わせてもアサン病院一施設の症例数よりも少ないのである。その原因は、韓国の肝移植は10前後の専門施設に集中し組織的・効率的に行われているためであり、その頂点に立つのがアサン病院である。また近年、韓国では脳死下臓器提供を促進するための制度、施策が次々と施行され、世界最下位に近い日本の約10倍の臓器提供数がある。WHOは自国民の臓器移植は自国で行うよう勧告しており、日本が止むを得ず行っている渡航移植を批判している。日本が韓国のように脳死下臓器提供を増加させるためには以下のような対策が必要である。1. 脳死及び脳死下臓器移植を国民に正しく理解してもらうための啓発・教育、2. 臓器の斡旋を主務とする臓器移植ネットワークとは別に臓器提供を推進する機関や脳死判定機関などの中央機関の設立、3. 移植コーディネーターの充実、4. 臓器移植推進のための保険制度の見直し、などが考えられる。

最後に、臓器を提供したいという意思、したくないという意思、また移植を受けたいという意思、受けたくないという意思、のいずれもが尊重され、実行される社会の実現を期待して、本文の結びとしたい。

サルビア会調理実習

平成31年3月17日（日）多摩市総合福祉センター調理実習室にてサルビア会（当院の糖尿病友の会）の調理実習が行われました。会員18名、職員2名、栄養科実習生4名の計24名が参加しました。4グループに分かれ和やかな雰囲気の中で調理が行われ、昼食として試食しました。試食後、栄養科実習生によるワンポイントアドバイスで牛乳を調理に取り入れて、減塩効果やカルシウムの摂取が期待できる「乳和食」についてのワンポイントアドバイスも行われました。

多摩丘陵病院 栄養科



みんなで楽しく調理しました♪



実習生による
ワンポイントアドバイス



【メニュー】 1人前 545Kcal
 ・鯖ときのこのバター醤油パスタ
 ・ピーマンのおかか和え
 ・さつまいものスープ



メニューは当院管理栄養士が
作成しました♪

食物繊維たっぷり！ 鯖ときのこのバター醤油パスタ

食材【1人分】

・パスタ（乾）	70g	◆にんにく	3g
・しめじ	20g	◆バター	5g
・椎茸	20g	◆醤油	6g
・牛蒡	30g	・こしょう	適量
・鯖缶	50g		
・大葉	3枚		

作り方

- ① しめじは石づきを落とし、椎茸は薄切りにする。牛蒡は細切りにする。鯖缶は身をほぐす。
- ② パスタを茹でる。
- ③ フライパンに◆の材料としめじ、椎茸、牛蒡を入れて炒める。その後、鯖缶を加える。
- ④ ③にパスタの茹で汁を適量加え、全体が混ざったら茹でたパスタを入れて和える。
- ⑤ 最後にこしょうで味を調える。
- ⑥ 器に盛り、千切りにした大葉を乗せる



第5回多摩丘陵病院 健康講座 『肝臓病を知る』

あなたの肝臓を守るために肝炎・肝がんについて知ろう！
 肝臓は「沈黙の臓器」と呼ばれるほど我慢強く、病気が進行していても自覚症状がないことも珍しくありません。肝炎ウイルスから肝炎、肝硬変、肝がんについてわかりやすく解説します。

講師：多摩丘陵病院

院長 島津元秀

専門医・資格者
 日本肝臓学会 専門医・指導医
 日本消化器病学会 専門医
 日本消化器学会 指導医
 日本消化器外科学会 専門医・指導医
 日本肝臓病学会 高度医療指導医

日時 3月23日（土）
 13:30～14:30
 (開場13:00)
 会場 多摩丘陵病院
 南棟1階会議室
 定員 50名
 参加費 無料

第五回健康講座 『肝臓病を知る』

平成三十一年三月二十三日（土）当院南棟一階会議室において、『第五回健康講座』を開催しました。今回は『肝臓病を知る』をテーマに、島津元秀病院長が講演を行いました。講座には近隣住民の方、福祉施設様等各方面から約五十名の方の参加がありました。参加頂いた方からは
 ●専門医から直接、肝臓病の基礎知識を拝聴でき、勉強になりました。普段、同様の話を伺う機会が身近に無く、気軽に学習できる場として役立ちます。
 ●このような場を設けて頂くことは、病院との距離感が短く感じられ、好感を持ちました。
 ●大変分かりやすく、聞きやすかった。勉強になりました。等の声があり、盛況のうちに終了致しました。



実技講習・・・職員同士活気ある姿に感動です

多摩丘陵病院内 ACLS 講習会実施



最後に田中先生より
終了証をいただきました！

2019年3月15日、国士舘大学 田中教授のもと多摩丘陵病院内でACLS（二次救命処置）講習会が開催されました。本講習会は多摩丘陵病院安全管理室が職員の技術・意識向上を目的とし定期的に開催しているBLS（一次救命処置）とACLSの講習会です。患者様の安心・安全のためスタッフ一丸となって取り組んでいます。

多摩丘陵病院 安全対策委員会